

茶碗

和歴	平安 794	鎌倉 1192	南北朝 1338	室町 1392	1467	戦国	安土桃山 1574	1600	江戸
中国歴	北宋 960	南宋 1127	元 1260	明 1368		明15~16C		明17C~	


唐物

『茶経の記述』
青磁、白磁を上品



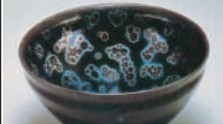
青磁茶碗 13C
馬蝗絆 重文 龍泉窯
日本初の喫茶の茶碗

『君台観左右帳記』
曜変、無上 油滴、その次 灰被天目、上




油滴天目 12~13C


相阿弥16C
その次 灰被天目、上




曜変天目 12~13C
稲葉天目 国宝



珠光青磁 12~13C
福建省、同安窯



灰被天目 12~13C



木葉天目 12~13C

珠光天目とともに侘茶で使われ始める
天目茶碗は、天目山の禪寺で学んだ僧侶が持ち帰った。

『君台観左右帳記』の御飾書に始めて染付が登場（おそらく建水）
この時代はあまり使われない



絵高麗茶碗 15~16C
磁州窯



染付雲堂茶碗 明16C
紀三井寺 利休
景德鎮民窯



安南染付 蜻蛉手茶碗
明16~17C

染付の流れた風情を茶人は絞手と称する

日本からの注文茶碗

古染付、祥瑞は茶碗は少ない。十客、二十客の向付を分けて転用



染付鬪鶏文胴締
祥瑞 景德鎮民窯 17C



染付杓茶碗 明17C
祥瑞 景德鎮民窯



染付山水文茶碗
呉須 明17C

呉須染付は、香合、水指が多い

桃山時代末から江戸時代の茶の湯の好みの多様化。遠州が好んで使う。
中国、明王朝の実権が衰退し、官営の窯民営化。日本から景德鎮窯に注文がなされる。


高麗物

『松屋会記』1537
高麗茶碗が初めて見られる。
1582~86侘茶から唐物（天目、青磁）が使われなくなる


狂言袴とならんで古格

李朝前期時代を代表 粉青沙器


白磁 半磁器質




雲鶴茶碗 15C
浪花筒 利休




三島茶碗 15~16C
二徳三島 利休




粉引茶碗 16C
松平粉引




刷毛目茶碗 16C




雨漏茶碗 16C




大井戸茶碗 16C
喜左衛門井戸 国宝
利休 朝鮮半島民が窯




大井戸茶碗 16C
細川井戸 国宝
細川三斎



青井戸茶碗 16C
柴田井戸




小井戸茶碗 16C
志水 遠州




堅手茶碗 16C


大ぶりなもの 高台に梅華皮
青味を帯びる
定形ない 古井戸とも言う




熊川茶碗 千とせ16C
松平不昧 古今名物類聚




蕎麦茶碗 16C



ととや茶碗 16C
龍田 松花堂昭乗



紅葉五器茶碗 16C



割高台茶碗 16C
織部 李朝の祭器

江戸時代に釜山で焼かれた注文茶碗を御本茶碗と言う。

家光が三斎の賀の祝いに描いた絵



御本立鶴茶碗 17C
柴田井戸

御本茶碗に次いで多い



伊羅保茶碗 17C

薄茶器



彫三島茶碗 17C
堅手茶碗

黒織部と近似



御所丸茶碗 17C
黒刷毛目

織部の好みによる注文



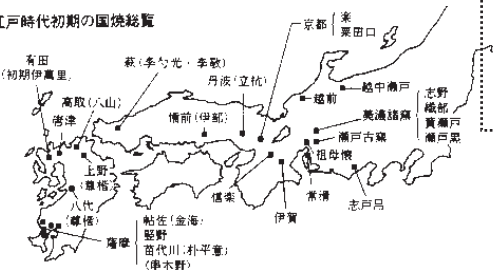
御所丸茶碗 17C
白刷毛目



金海茶碗 17C
六地藏

和物

江戸時代初期の国焼総覧



瀬戸天目 唐物天目を做ったもの。
14世紀頃、実用の器で使い捨てと考えられる。

やや日本で脚色



白天目 16C
紹鷗 重文
日本で初めての白い焼物



瀬戸黒茶碗 16C
小原木



志野茶碗 16C
卯花塙 国宝



長次郎 黒楽茶碗 16C
大クロ 重文



奥高麗茶碗 16C
唐津



菊花天目 16C
遠州



黄瀬戸茶碗 16C
アサイナ 宗旦



志野茶碗 16C
振袖



長次郎 赤楽茶碗 16C
無一物 重文



光悦 黒楽茶碗 17C
雨雲 重文 本阿弥光悦

朝鮮半島の陶工による各藩の窯（文禄、慶長の役）



黒織部茶碗 17C



萩茶碗 17C
むさし野



乾山 色絵菊文茶碗 17C
尾形乾山



道入 黒楽四方茶碗 17C
升 楽家三代



高取茶碗 17C
香久山 遠州



仁清 色絵鱗波文茶碗 17C

江戸時代前期を代表する京焼